

# しのはら歴史便り

篠原地区歴史同好会 / 浜風会会報 No.22

浜風会/入会募集中  
毎月第1,3木曜日

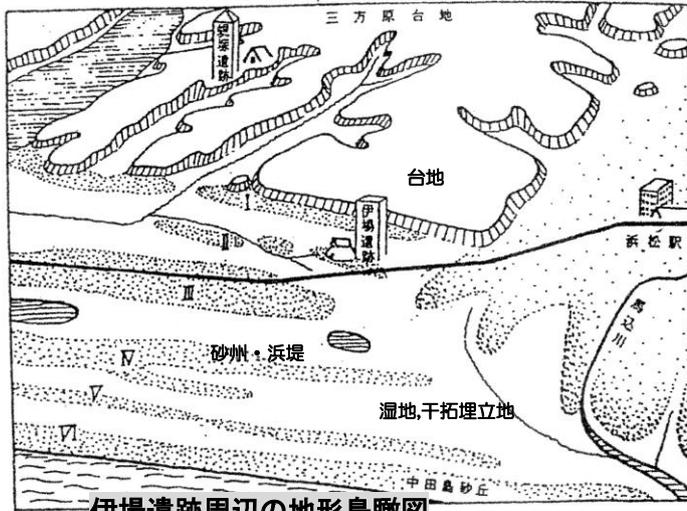
## 篠原地区の「山」を探る

現在この地区で共通の関心事は、「津波が来た場合逃げるところが無い。どうしたらよいか」ということである。しかし私達はここで毎日生活している。毎日農作業をしているのである。千年に一度の最悪条件で示された被害想定が出たからと言って、あわてても始まらない。水は高い所から低い所へ流れる。もっと現実的に、冷静に自分達の足元を見てみよう。

### 篠原に「山」がいくつもある

篠原に「山」と山が付いた地名が沢山あることをご存知だろうか。『浜風と街道』の資料編「篠原地区の字、地名図」をみると、12もの「山」がある。東から「東山」「大村山」「倉の山」「天神山」「篠原の高山」「又三山」「仲山」「坪井の高山」「権兵衛山」「天王山」が代表的である。山と言いつからには、周りから少し小高いところを表していることだろう。そのいくらかを地名由来等から、引用又は説明してみる。

「東山」：篠原の東の端、高塚との村境付近の東海道の北側一帯は、小高く広い林



伊場遺跡周辺の地形鳥瞰図

保泉寺の裏が6.0m、三分一の踏切が5.7m、その他、稲荷神社横の坪井尻

が9.8m、の裏山の裏山、萬松院の裏山、い所は、高が高、然低い所もわかる。標

であったことから東山と呼ばれるようになった。又東海道沿いは東山嶮と呼ばれていた。「又三山」：高山、倉の山、天神山で囲まれ、辺りを又三山と呼んでいる。「仲山」：旧東海道を挟んで二つの小高い山があることが関係しているのかと想像する。「高山」：坪井と馬郡の境付近を言い、文字どおり周りが一段高い所である。

### 海拔表示

最近あちこちにその場所の海拔が表示されたが、標高数字を表した地図を見ると、篠原地区の高い所を見出すことが出来る。当然低い所もわかる。標

童遊園も5m以上ある感じである。

### 伊場遺跡周辺の地形鳥瞰図

上図は浜松南部の地形が三万原台地の南に六列の砂州、砂丘が分布することを表している。その目的の砂丘に沿って東海道路線を設置したと言われている。この延長線上に篠原があり、篠原東の高い所がある理由がわかる。なお目的の砂丘はその先、西に行くくと川により切れている。

### 長里郷の言い伝え

地震、津波と言えば篠原には、明応七年、永正七年に発生した津波で、舞阪弁天島北方にあった長里郷が水没、そこから命の助かった人達が、この篠原に避難し新しい村をつくったという言い伝えがある。少しでも高い所に住みつけた筈で、篠原のJR北一帯が高かった故に、早くから発展した様子を伺い知ることが出来る。篠原の「山」が、南海トラフによる大津波の被害軽減に、大きな役割を果たすことを念じる。

### 平成24年度主な活動

#### ★ 山下孝先生講座

- ①「お釈迦様の生涯」
- ②「東海道の移り変わり」

#### ★ 本年のテーマ

- ・原点に返って地域の掘り起し
- ・地震・津波に関する掘り起し

#### ★ 主な自由研究

- ・幕末維新期の旅日記より
- ・家康と浜松城
- ・篠原の年表整理
- ・井伊氏と日蓮上人
- ・戦後の分散授業の実態
- ・「南海トラフ」について
- ・篠原地区の“山”を探る
- ・農地解放について

#### ★ バス旅行/小旅行

- ・久能山東照宮と広重美術館
- ・郷土の偉人記念館巡り

# 米津の江戸送り地蔵

浜松市米津町に、臨濟宗方広寺派の安泉寺がある。このお寺には悲しいお話が残されている。それは、江戸時代安永二年（一七七三）十月嵐の一夜が明けた朝、米津の村人が海岸に出てみると、遭難して流れ着いた一隻の干石船を見つけた。

遠州灘は、遠浅で波が荒く遭難事件がよくある。当時の米津は半農半漁で地引網をしていたので、海のことには明るい。この場合も知らせを聞いて村人はこそっと救助に駆けつけた。全員が力を合わせて船を引き上げ、漂流したり流れ着いた積荷を一つ残らず集めて役人に差し出した。

数日後、船の修理も終り明日は出発するという時になって、「積荷が足りない。將軍様への献上品である。調べて犯人を出せ。さもなければ全員を処刑する。後日江戸出向の沙汰を待て」と、捨てぜりふを残して御用船は江戸に向けて出帆した。

純朴な村人に積み荷を盗む者等居るはずがない。不足の荷物は海の底に沈んだのだろうか。村人たちは、ただただ途方にくれるばかり。何事も手につかない。困った村人は、浜松藩主井上河内守の家中に相談した。ところが、

「相手は徳川御三家の紀州藩である。下手人を出したらどうか。救う手もあろう」との返事で取りあってくれない。村人の談合寄り合いは、昼となく夜となく続いた。誰も盗った者がいないので、話し合いは前に進まない。浜松藩としては、大藩の紀州藩に逆らって事を大きくするよりも、身代りの下手人を出すしかない」と圧力を

をかけてきた。江戸出頭の期限も迫ってきた。こうした村の大難の時

「私が下手人になって江戸に行くこと」と、隠居船組頭の又三郎が申出た。当時米津は、隠居船、中船、新船、本船、清三、六軒の六字で、これは各字が所有していた地引網船の名で、これが字名でもあった。これを聞いた他の組頭五人も、又三郎一人を罪人にするわけにはいか

## 江戸へ向かった組頭と戒名

又三郎 (隠居船)	惠教廓然居士
仁左衛門 (中船)	徳行遠慶居士
寅之助 (新船)	旅岳円道居士
半五郎 (本船)	遠山慈州居士
権兵衛 (清三)	歸冬翫月居士
仙之助 (六軒)	古閑還郷居士

ない。われわれもと名乗り出た。

この六人の身代り人は、家族や村人と別れの杯を交わした後江戸へ旅立った。村境まで見送った人々の胸中は察するに余りある。

これで村の危難が去ったわけではない。六人の組頭を救おうと必死の助命運動を続けた。再び浜松藩へ願い出た。ところが、

「紀州家へ二百両のわび金を出したらどうか」ということだった。当時の米津村は、六十三軒の貧しい農漁村だった。村人は家財道具や土地を手放して、血と涙の大金二百両を調達し、祈

る心で浜松藩へ提出した。しかし、この大金が江戸にも届かず、紀州藩邸にも届かず、六人を救う役目を果たされなかった。二百両の行方は分からずじまいになってしまった。

その年の暮れ、身代り六人は江戸小塚原の刑場の露と消えた。この知らせを受けた米津村の人々は、犠牲となって村人を救ってくれた六人の菩提を末永く供養するため、石地蔵を造った。これに戒名を彫り込んでお寺の境内にお祀りした。ところが、

「罪人を仏として祀ることはけしからん」とお叱りを受け、やむなく石地蔵を境内の藪かげに密かに埋めて姿を隠した。やがて年が経ち、世代が変わり、義人六人の話は口伝えには伝えられていたが、石地蔵の在りかはいつか忘れ去られた。

昭和十年十月、寺の墓地を拡張するため、村人の手で整地した。この作業中に石地蔵を発見し掘り出された。附着する土を洗い浄めてみると、「江戸行総代の文字と六名の戒名」が刻まれていた。時の住職安泉寺十三世小林鶴州和尚は、戒名を頼りに過去帳を調べ、村の古者を尋ねその記憶をもとに、村を救った六人の記録を作った。住職はこの戒名が「沙弥」「信士」と低いものだったので、これを改め「居士」の位を贈り霊に報いることにした。

昭和十四年遺族と村の有志の寄与により地蔵尊の祠が建立された。

昭和四十八年二百回忌法要を地元民で営む。昭和五十五年篤志家、太田泰次を中心に村民他多くの方の浄財により、地蔵堂を建立した。

### 参考資料

- ・安泉寺住職の談話
- ・「米津浜の松風」 米津町 井口周治著

# 水野南北物語

・「潮のかおる浜の里」新津わが町文化誌

「水野南北」の書き出しで始まる古文書が家の中から出てきた。(中山 清宅) 初めて知る人名である。文章は解読できたが、南北という人については一部しか理解できなかった。人名を頼りに調べると、関係ある図書が七点、参考図書(文人、作家のもの)五点、更に南北発行の著作もあるようで、思ったより多数の書籍があることがわかった。当時日本一の観相家と言われた水野南北についてこの機会に解説する。

## 水野南北の生い立ちと経歴について

宝暦十年(一七六〇)当時の大坂に生まれた。幼くして両親を失い、叔父夫婦に育てられる。子供(十才位)の頃、酒を覚えたので、酒代欲しさに盗みをするようになった。酒と博打、喧嘩に明け暮れるようになる。十八才の頃、刃傷沙汰を起こし牢屋に入れられる。牢内で罪人と一般人の顔には著しい相違があることに気付き、観相に関心を持つようになる。出牢後ある人相見から「あんたは顔に死相が出ている」と言われた。運命転換のため、ある寺の住職に出家を願いだした。住職から「半年間、食は麦と大豆だけの暮らしが続けられたら許す」と言われた。沖仲仕を続けながら半年過ぎた頃死相が消え、運勢も改善された。観相学向上のためには、自らの体験が必要と考え、髪結い床三年間、主として「頭の相」を観察し、湯屋の三助業にも

三年間裸体を観察する。これで生きている人間は理解できると悟った。更に三年間は、火葬場

おんぼう

の隠亡(死体を処理する人)を勤め、骨相や死因の分かっている死体の観察に努めた。このように辛苦研鑽を続けても、従来の観相学で百発百中とは言えず、思い悩んだ末、伊勢の五十鈴川で断食水行の荒行を五十日程続けるうちに太啓(瞬間的な神のお告げ、その人のひらめき)が訪れる。南北は改めて強い確信を得ることができた。飲食は人間の欲望の筆頭である。観相

に際しては必ず詳細にこの人の食生活の様子を聞いて占い判断を下し、外れたことはなかったという。南北はある時、運の悪い人の死体解剖をした。内臓、特に胃や腸の色艶が正常でなく悪い残存物が発見された。運は食なりという結論に達したのである。南北は江戸時代中期、



京都に住んだことがあった。聖徳太子を教祖として尊んだ。

南北の名前である「南」と「北」は火と水であり、陰と陽、即ち易である。南北の観相学が三百年もの長い年月受継がれてきたのは、彼の外れない正確な観相が万人の信頼を得たからである。観相学(手相学、人相学)も必要だが

飲食の様子を聞いた占い、判断は一人の失敗もなかった。観相と飲食の併用により誤りのない相法がなりたつ。「人の運命は飲食であることを確信し、これを私の相法の極意と定めた。この信念を生涯貫き通し、多くの人を救うことに努めた」と述懐している。南北は天保五年(一八三四)、高弟であった小西喜兵衛宅の奥座敷で亡くなった。享年七十五才であった。

## 結論として(南北の教えの要点)

いかなる良相、吉運。健康な人であっても常に美食をなし、十二分な食事をしたならば、悪相となり、凶運、短命となる。これとは逆に、どんな悪相、凶運、病弱な人でも口にするものを節し、食事を腹八分にすれば良運となり、健康、長命となる。「食は命なり」飲食により人の運命は変わるといふ意味である。参考文献 「水野南北の提唱した飲食のつしみ」等

# 篠原国民学校の 分散教育

会員 後藤守利

私は昭和十八年四月に篠原国民学校初等科一年に入學した。

年々戦争は激しくなり、昭和二十年には艦載機や飛行機雲を引いたB29等の爆撃機が来襲し、空襲警報は日常茶飯事であった。

このような状況の下で国民学校児童の安全確保に大変な努力がなされていた。昭和二十年二月、運動場に部落毎の防空壕が掘られた。この年の篠原国民学校沿革誌に次のように記載されている。

**四月六日** 分散教育実施 空襲頻繁トナリタル為児童ノ通學困難トナリ停車場及ビ西馬郡西部落ノ児童ノタメ幼稚園二分散教育ヲ開

始ス

**五月十八日** 敵機ヨリ機銃掃射ヲ受ク 第三時限終了直後B24侵入、児童待機セルモ敵機旋回機銃掃射ヲナス 応急処置ヲナシ医師ノ治療ヲ受タルモ一名死亡、二名重症一名軽傷ノ被害アリ

**五月二十四日** 全面的分散教育開始 全校ヲ九カ所二分散シ教育ヲ継続セリ

**六月十日** 本校ノ分散教育ハ全国的ニ最初ナリシタメ会場ヲ本校ニアテ県指定ノ研究会ヲ開ク 鳥山視學官、比奈地学務課長御指導 参加校 第四部会各校、新居、鷺津、村櫛、白須賀 尚、当日午前空襲アリシタメ研究会ハ午後

この記録から、最も遠距離通学となる停車場と西馬郡西の児童の安全確保のために、停車場の幼稚園（現在の春日幼稚園）で分散教

育を開始したことがわかる。

五月二十四日から実施としている分散教育の場所は、聞き取り調査の結果、次の九カ所であることがわかった。

- ① 鈴木酒造（現在の遠鉄ストア）の酒造倉庫で篠原東の初等科三年生まで
- ② 青年学校三分一校舎（三九八番地、旧元学校）で篠原東の初等科四年生以上
- ③ 善養寺（現在の篠原寺）で篠原西の初等科二年生まで
- ④ 海蔵院（現在の興福寺）で篠原西の三年生
- ⑤ 西神明神社社務所で篠原西の四年生以上
- ⑥ 国民学校校舎で篠原西の学校付近と新田の児童
- ⑦ 東光寺で坪井本田と東馬郡の三年生まで
- ⑧ 石津燃系工場で坪井と東馬郡の四年生以上
- ⑨ 停車場幼稚園で停車場、西馬郡の児童

## 地震について学んできた事（浜風会）

平成の時代に入ってから、平成7年1月17日には兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震M7.3、犠牲者6,437人）や平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災M9.0、死亡、行方不明者合せて1万9千余人）の大きな災害を伴う地震が発生し、人々に大きな衝撃を与えました。

浜風会では以前から地震についての話題の機会をもつようにつとめてきました。今まで取り上げてきたこととして

- ・東南海地震M7.9(1944.12.7)による遠州地方の災害の様子。
- ・北伊豆地震M7.3(1930.11.26)による横ずれ断層の状況、特に丹那盆地百数十m下のトンネル工事中の記録からの様子等
- ・濃尾地震M8.0(1891.10.28)根尾谷断層の見学（国指定特別天然記念物：岐阜県本巣市）
- ・大震災と東海地震への備え（大地震の歴史）などをやってきました。



根尾谷断層  
落差6mの地層のずれが今も残る

東海地震発生の提起がされてから、36年が経過、この期間この現象は生じていません。

しかし、南海トラフに起因する海溝型地震の連動を考慮した津波について、理解を深めていきたいものと願っています。

戦時下の非常に困難な時に、全国的に、村の協力を得るために、早急な措置がとられ、義務教育が継続されたことが、わたる。

聞き取り調査の中で、停車場幼稚園は三年生まで、四年生以上は西遠織布の食堂を借用したという話がある。これについては今後も調査をしたい。

浜風会会報第22号  
 浜松市篠原公民館同好会「浜風会」  
 （篠原地区郷土の歴史を学ぶ会）  
 編集委員 委員長 山下勝彦  
 鈴木清 鈴木義雄 鈴木幹久  
 鈴木忠 中山清  
 発行責任者 山下勝彦  
 発行平成25年1月1日  
 連絡先：篠原公民館気付